

厳しい冬の寒さもいつの間にか和らぎ、吹く風に春の訪れを感じられる季節となりました。

本日は、私たち卒業生のためにこのような式典を開催していただきまして、誠にありがとうございます。

そして、ご多忙の中ご臨席賜りました安部理事長、安東学長をはじめとした諸先生方、またご臨席を予定していただいていたご来賓の皆様、保護者の皆様に卒業生一同、心より御礼申し上げます。

長崎国際大学で過ごした4年間を振り返ると、友達と教室で講義を受けたこと、旅行業務取扱管理者の資格取得という目標に向けて友達や先生と勉強をしたこと、日本語教員養成課程の一環として教育実習に行ったことなど、語りつくせない程の思い出がよみがえって来ます。

大学生活の思い出は決して楽しいことばかりではありませんでしたが、いつでも支え合い、成長し合うことの出来る仲間がいました。だからこそ、一人では諦めてしまっていたことも乗り越えられたのだと思います。苦楽を共にし、互いに励まし合い、高め合える仲間に出会えたことは、私にとって人生の宝物です。

また、何より4年生になる頃から新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、当たり前の日常が当たり前ではない事を痛感させられました。授業形態も大きく変わり、普段であれば友達といつもの教室で授業を受けているはずが、リモート授業に変わり、就職活動においても移動の制限やリモートでの面接など初めてのことだらけでした。しかし、不遇の時代を経験し乗り越えた私たちであれば、社会に出ても様々なことに臨機応変に対応できるのではないのでしょうか。

さて、私たちは今大学生活の重みが詰まった学位記を頂きました。本日をもって長崎国際大学を巣立ち、それぞれの道を歩み始めます。

私をはじめ卒業生の中には現在厳しい状況に立たされている、観光関連業界に就職する学生もいることと思います。今後難しい問題に直面することもあると思いますが、大学生活を通し培った、学問の知識はもちろんのこと、人間尊重やホスピタリティの精神を発揮し逆境の中力強く進んで行きたいと思います。

今後さらに学問の道に進む人も社会にでる人も明日からの人生の節目において、その都度ここで学んだことの意義を噛み締め、それぞれの分野で活躍し、一人ひとりが託された使命を精一杯果たして行きます。

最後になりましたが、本日まで真摯にご指導、ご支援して頂いた諸先生方、職員の皆様、刺激を与えあった仲間たち、温かく見守り続けてくれた家族をはじめ、多くの方の支えがあっ

って無事に卒業の日を迎えることが出来ました。これまで支えてくださった全ての方々に心よりお礼申し上げます。そして皆様のご健康と、長崎国際大学の益々の発展を願い、卒業生代表の挨拶とさせていただきます。

令和三年三月十三日

卒業生代表 人間社会学部国際観光学科

安藤 里華